

みどりの風



医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071
 社会福祉法人 松樹会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2190
 URL <http://midori.jpn.org/> E-mail midorii@io.ocn.ne.jp

編集責任者：理事長 中村 猛
 編集：季刊誌発行委員会

第6号所感

理事長 中村 猛



11月に入り急に冷え込んだ朝を迎え、気象庁では今季初めての“からっ風1号”を発表した所、北海道では突然の竜巻によるいたましい死亡者発生等の災害が知らされました。いよいよ冬の到来を感じる今日この頃です。

北朝鮮の核実験より約1ヵ月が経ち、連日各国との協議対策のニュースが流れています。

又、アメリカでは中間選挙が行われ、イラク戦争後の長引く紛争、犠牲者続出でその責任が問われ、野党の民主党が圧勝しております。

日本では安倍新内閣の発足で“美しい国日本”のキャッチフレーズのもと、まず教育の抜本的改革を大きくかけました。そのため連日教育現場での実態、いじめの問題、必修科目不履行の問題、初期教育より英語学習を取り入れる問題等、ニュースをにぎわしております。

先日、教育者である友人との話で、IQ（知識の量で見た偏差値を基準とする）とEQ（感性・徳性を基準判断とする）の問題が出ました。IQを尺度とした、画一的な教育制度から現在の日本の政治・経済、あらゆる分野の人材養成をすすめている中で、もっとおのおのの個性・独自性・独想性・弾力性をもった感性の尺度、すなわちEQをもとに教育改革をすすめる必要があると説いていました。

知識、科学が先行するこの地球上に、自然・環境を守り、

調和して、我々の人間社会の中に文化、芸術、スポーツの豊かな花ひらいた社会を実現するには是非とも知性のIQから感性のEQへの教育制度の転換をはかってもらいたいものです。

一方、医療福祉分野ももうすでに大きな改革の嵐のただ中にあります。

医師、看護師をはじめとした医療従事者の不足が顕著となり、現場ではその過重労働からますます悪循環に陥る傾向にあります。

何とか日本の誇る医療の国民皆保険制度を守るため、各分野の方々が結集して知恵をしぼる必要があります。今まさに日本の医療が崩壊の危機にあるとさえ言われております。

現場に戻りますが、私ども両法人では、この11月にはインフルエンザ予防接種を例年通り、希望者に接種しております。特に昨年は高齢者の入所施設に流行して大変困りました、今年は何とか防げることを祈っております。

又、年末・年始の業務もしっかりと入院、入所、急病患者などに対応できるよう勤務表の作成を急いでおります。

これから平成18年度の総仕上げに、又、来る年が希望に満ちた元気な明るい年になりますよう頑張りたいと思います。



病棟カンファレンス

小学唱歌に想う

介護老人保健施設 なごみの里 施設長 岡田 弘

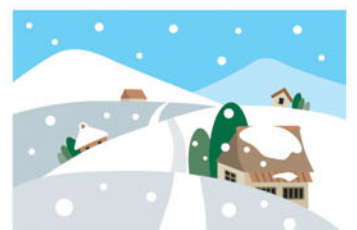


どこの施設にもあるように、なごみの里にも、歌謡曲集、童謡集、小学唱歌集が揃っています。通所でも入所でも、お年寄りが歌っておられる声が聞こえます。そこで、旧文部省編纂の新訂尋常小学唱歌（昭和7年4月～昭和16年3月）を調べてみました。お年寄りには記憶にあると思いますが、小学唱歌には我が国の歴史・英雄・偉人・地理・自然・行事・風物などを歌ったものが多く、歌っているうちに、自然にこれらのことを覚えるようになっていきます。また歌詞に散りばめられた、美しい言葉が沢山あります。もちろん、平和的でない、軍国調の歌は廃止すべきです。しかし文語調の歌詞は、難解を理由に削除するのではなく、学年を考慮して教え、理解させるべきです（私らも教わったのです）。

残念ながら昭和55年の指導要領改定で、かたつむり（でん

でんむしむし）・月（出た出た月が）・雪（雪やこんこ）・村まつり（村の鎮守の神様の）・茶つみ（夏も近づくと）・村のかじや（しばしも休まず）・鯉のぼり（いらかの波と）・海（松原遠く）・われは海の子の9曲が、削除されました。これらのどれも、すぐにメロディが出てくる曲ばかりで、今もテレビの特集などで歌われています。このような日本の季節感を表わし、美しい風景を描いた小学唱歌が、是非復活することを望みます。

小学唱歌は、単なるナツメロであってはなりません。私たちが小学校の時に教わった歌は、一生覚えていきます。そして人生の節々に思い出しては歌い、新たな生きがいを感じるのです。ひいては美しい日本を造り、愛国心をも養うものと思います。



医師紹介

眼科医長 山田 孝子



哲学者のプラトンが視覚を他の感覚より優れたものと位置付けたように、視覚は五感の中でも大切な感覚です。その視覚を失うと言うことは我々が想像する以上に苦痛だといいます。現在の日本における失明原因の第一位は糖尿病性網膜症です。最近は食生活を含めたライフスタイルの欧米化により糖尿病を発症する人が増え、糖尿病性網膜症で失明される方も増加しています。糖尿病になっても網膜症がでてくるのには数年から10年くらいかかる事が判っていますが、糖尿病

にかかってしまったら、眼の症状が無くても眼科で定期的に診察を受ける事が非常に大切です。初めは眼科を受診しても「糖尿病と診断され何年もたつがよく見えているし大丈夫」と思って受診されなくなる方もいらっしゃいますが、それは間違っています。中村病院眼科外来では蛍光眼底撮影による網膜症の診断や、レーザー装置を用いた網膜光凝固術による進行予防を行う事ができます。又、糖尿病の専門外来（糖尿病内科）があり、内科・眼科との連携をとりながら診察・治療を行っております。

最近の中村病院眼科では、白内障手術・外眼部の手術・緑内障にも重点を置いております。白内障手術はかなり安全に行われるようになってきましたが、同じように手術していても術後の視力は患者さんによって違ってきます。白内障以外に

視力障害になる原因があれば、白内障手術をしても視力の改善が認められない事もあります。医療はオーダーメイドだという精神にのっとり、各個人の眼の状態や手術方法・術中術後の合併症についても十分な説明を行って、手術を行っております。外眼部の手術として、眼瞼内反症・結膜弛緩症・眼瞼下垂などを外来手術にて行っております。緑内障の方は定期的な眼圧測定と視野検査による経過観察を行うとともに、専門医による視神経診断も行っております。又、月曜と土曜には京都府立医大より、それぞれ網膜硝子体と緑内障を専門とした先生を派遣して頂いており最新の医療を行っている大学からの情報も提供できるかと思っています。

最後になりましたが、私は患者さんのお話をよく聴き、できるだけ症状を改善できるようにと考えております。どちらかという声をかけやすい雰囲気があるとは思いますが、何か疑問に思うこと・不安な事があればいつでも気軽に聞いて頂ければ幸いです。

眼科の取組紹介

L-OMA・眼鏡士 飛田 往良

それは、ある患者さんの一言がきっかけでした。

「眼科で診てもらいたいんですけど、（車椅子から離れて）何回も動かんといかんからおっくうや」

眼科外来の特徴として、診察を受ける前にいくつか検査を行う必要があります。

初診で来られた患者さんはまず、「眼圧検査」「他覚的屈折検査」を行い、「視力矯正」の後、医師の前で「顕微鏡検査・眼底検査」を行います。必要に応じて「眼底写真撮影」や「超音波検査」「視野検査」「レーザー手術」など、追加の検査や手術も行ないます。

その都度、『椅子に座って』『あご台にあごを載せて』『おでこを台にくっつける』動作が繰り返されます。

健常者はなんともないのですが、車椅子や体の不自由な患者さんにとっては大変です。診察に行き着くまで、毎回多くの『関所』を通過しなければいけません。

中村病院では、一度に5台、6台の車椅子の患者さんが並べられることは珍しくありません。

これまで、2つの並んだ器械の椅子をひとつにししたり、その都度、車椅子で器械にあごが載るか確かめて、無理なら椅子に移ってもらい出来るだけ患者さんが動かずに検査が出来るよう対応しているつもりでしたが、冒頭のような患者さんの意見を

耳にし、もう一度考え直さねばと思っていました。一般的なバリアフリーの意味である「建物内の段差の解消」といった平面的なものだけでなく、上下移動の三次元的な問題を解決する必要があります。

最近、検査用の特殊な車椅子を見つけました。使ってみるとなかなか快適です。

これまで車椅子で不自由を感じていた、

①車椅子の足元が検査器械の台にひっかかって体がなかなか器械に近づけられない。

②うまく近づけても体をもう少し前かがみにしないとあごがあご台に載らない。

③小柄な患者さんは器械の台をいっぱい下げても届かないので座布団をお尻にはさんでもらっていた。

ということも、この椅子ですとほぼ解消されそうです。

まだまだ改善の余地がありますが、これからは患者さんからの信号を常にキャッチして、ストレスの少ない環境づくりを構築していこうと思っております。



中村記念病院

医師紹介

脳神経外科医師 笠井 治文



この5月16日より中村記念病院で勤務させていただいています笠井治文（カサイハルブミ）といいます。生年月日は昭和37年1月26日です。治文の名前の由来は、「治」は祖父の名前から一字もらい、「文」は伊藤博文からももらったそうです。それでブミと濁ります。

出身は京都市中京区で、京都市立堀川高校卒業後、1浪して関西医大に入学し、卒業後は関西医大脳神経外科に入局し、研究室に入っていたとき以外はほとんどが臨床に従事していました。脳神経外科は、脳血管障害、脳腫瘍、脊髄疾患、頭部外傷などの疾患を外科的に治療する診療科ですが、実際外来を受診する方の多くは、頭痛、しびれ、めまいなどの症状の方が大半です。しかしそういう些細な症状の中に、危険な病気の前触れ症状だったりすることがあるので、そういう兆候を見落とさないようにするのが脳神経外科医の務めと考えています。

これまで脳神経外科疾患の主めに急性期を治療してきて、正直リハビリの段階になると他院へ転医することが多かったため、あまり長期間のリハビリ

過程をみるのが少なかったです。中村記念病院は回復期リハビリテーション病院になりますので、個々の患者さんのリハビリ内容や回復過程など、また他の福祉施設などとの連携など、毎日が勉強になっていることを実感しています。

趣味は、20-30代の頃は割とアウトドア派で、キャンプなどにもいき、またゴルフやスキーもちょこっとだけしていましたが、最近はインドア派で映画鑑賞やDVDを見たりするほうが好きです。縁あって中村記念病院で働くことになりましたが、この病院は現在の住まい（京田辺市）から一番近い病院になります。通勤に費やす時間が大分短縮されたので、肉体的および精神的にも楽になっています。この楽になった分をエネルギーに変えて、今の仕事により傾倒させて精進していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

■ 新任非常勤医師のご紹介

中村病院に新たに5人の非常勤医師が着任致しました。
今後さらに充実した医療体制のもと、地域の皆様のご要望にこたえた、医療サービスの充実に努めてまいりますのでよろしく
お願い申し上げます。(記 松永)

《整形外科》

川口 杏夢 医師



毎週火曜日 午前診

脇谷 滋之 医師



毎週土曜日 午前診

《消化器外科》

高城 武嗣 医師



毎週月曜日 午前診・午後診

河合 英 医師



毎週木曜日 午前～夜診

《精神科》

高橋 哲也 医師



毎週水曜日 夜診

介護老人保健施設 なごみの里

■ 施設職員の交換職場体験学習に参加して

看護師長 中山 佳津子



原田 さん



籠 さん

(逢々館かたの)

今年、初めて大阪老人保健施設協会主催の施設職員の交換職場体験に参加させていただきました。

その中で、内部研修や外部研修ではなかなか感じ取ることのできない他施設の状況や取り組みをダイレクトに学習する機会を得ることが出来ました。

今回は、交野市の「逢々館かたの」様の介護職員、看護職員の2名となごみの里の介護職員2名が2日間ずつスタッフとして職場を交換して業務につきました。

同じ老人保健施設であっても業務の流れや方法が異なることも多く、戸惑ったことも

ありましたが、お二人のレポートを拝見させて頂くと、「カンファレンス(ケアプラン)の際、看護師・介護士だけではなく色々な職種のスタッフが参加しているため、視野が広がり、利用者様にとってベストなプランが立てられているのではないかと感じた」との感想でした。お互いの良いところや取り入れられそうなところがきちんと纏められていました。今後、施設の業務の見直しにこれらの情報を役立てていきたいと思っています。



辻村・法崎

■ なごみの里でのリハビリテーションについて

リハビリテーション科 副主任 山田 浄明

老健では様々な場面で理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が関わり、利用者のリハビリをお手伝いしています。

- ①在宅復帰を目標とした入所者への生活リハビリ
- ②在宅でより充実した生活が送れるよう援助する通所リハビリテーション
- ③認知症の予防、進行防止を目的とした、認知症短期集中リハビリテーション
- ④家族への介助方法の指導や、環境整備の助言を目的とした訪問指導

各利用者様が維持しておられる身体能力、即ち、それぞれの方が生活する環境は利用者1人1人違いますので、その方に合ったサービスが提供できるよう定期的に看護、介護の他職種間での情報交換を行っています。

1人の利用者セラピストだけでなく、多種多様な職種の人たちが関わりあい、その人のニーズにあったリハビリテーションを施設全体で提供できるように努めています。



機能訓練室

在宅部門

■ ケアマネジャーとの連携方法の改善について

訪問介護ステーション 所長 小山 康子



介護保険制度が始まり、私が訪問介護に携わらせていただき早くも6年が過ぎようとしています。この間に様々な制度変更がありました。

特に今年の4月に大幅な制度の見直しがありサービスの内容や、あり方を今まで以上に見直していかなければならなくなりました。たとえば生活援助のサービス利用時間の短縮が義務づけられた点です。

本来ならば、ゆっくりとコミュニケーションを図りながらサービスが提供できていたのが、時間に追われるあまり、ゆとりのある介護が提供し辛いような現状になりつつあります。また、私達と協同で利用者様の日常生活を支えているケアマネジャーも、作成しなければならぬ書類が膨大に増え、お互いに意思疎通がなかなか思うように出来ない面もあります。そのような状況を打破し、利用者様に喜んでいただけるサービスを提供する為に、「訪問介護ステーションみどり」では、ケアマネジャーとの連携を図るために出来る限りの協力をさせていただこうと連携方法の改善を行いました。例えば、今までは月初に各居宅介護支援事業所を回り、ケアマネジャーに担当利用者様の1ヶ月間のご様子を報告していましたが、この方法では、日々変化

する利用者様の様子やニーズにすばやく対応することができません。

そこで、この点を改善しようと私達「訪問介護みどり」では考え、報告書の記入方法・伝達方法を変更しました。

具体的にはサービスを提供したヘルパーから、どんな細かいことでも報告するよう義務付けた点と、それを当日に担当ケアマネジャーに報告するように改善した点の以上2点です。

わずかな事のようにですが、担当ケアマネジャーからは「利用者の細かな体調の変化がわかり、ありがたい」などのお褒めの言葉をいただいております。また、ヘルパーからも「観察しなければならない点などが理解できた」との声も聞かれ業務に対するモチベーションが上がるようになりました。

今回の見直しで、より良いサービスを提供するために利用者様の声をすばやく聞きとり、お役に立てるように、連携を密にこれからも努力してまいります。

特別養護老人ホーム「いこいの里」 開設に向けて

開設準備室 岡崎 基



特別養護老人ホームいこいの里も平成19年4月1日の開設に向けて順調に工事が進んでまいりました。年内には、足場の解体も終わり立ち上がった外観が交北の地にみられることかと思えます。また、実際のサービス提供におきましても9月よりいこいの里実行委員会が立ち上がり、いよいよ本格的な準備になって参りました。いこいの里のユニットケアの特徴としては全室個室でありながら10人のご入居者のグループが廊下などを隔てて分かれて

の声を聞きながら研修などを通して人材確保に努めていきたいと考えます。



建築現場外観

いるところもあります。今後の実行委員会においても、ユニットごとのサービスと施設全体のサービスをどのようにまとめていくかが大きな課題となっていくことかと思えます。

中央人材センターによりますと、2005年度の有効求人倍率は、高齢者福祉分野で1.45と非常に高い数値を示してきております。しかしながら、昨今は介護職員の確保が非常に厳しい現実となってきております。少子高齢社会に向かう中で介護職のニーズが高まってきておりますが全体的に介護労働力が減少傾向にあります。人材確保として7月に大阪府社協主催の「福祉の就職総合フェア」に参加しました。フェアに参加した求職者は3075人となっております、当施設のブースも多くの方に参加していただきました。しかし、同じ福祉職でも介護職希望の学生の方の人数としては非常に少ない印象を感じています。

高齢社会を迎え、介護の需要が増える一方、少子化や景気の上昇などで労働者が他職種に流れていく現実から政府もフィリピンと経済連携協定(EPA)を締結しました。これからはますます海外との協力関係の中で介護労働者の確保の必要性も出てくることも考えられますが、現場スタッフ



完成イメージパース

平成18年度永年勤続者表彰

平成18年10月6日、平成18年度永年勤続表彰者の表彰式を行いました。今年度は4名の方に永年勤続の感謝をこめて中村理事長より表彰状・記念品を授与されました。

「勤続20年表彰」

中村 廣久 (中村病院・放射線主任技師)
松田 秀子 (中村病院・看護師)

「勤続15年表彰」

野 岡 香 織 (中村病院・看護師)
和気 加奈子 (なごみの里・事務)

(※永年勤続10年・25年は該当者なし)
(記 廣江)

理事長院内講演会開催

10月4日(木)中村病院食堂にて「日本の医療制度」について～私の思うこと～というテーマで当法人の中村理事長による院内講演会が開催されました。多数の出席者のもと、前半は日本の医療制度の現状に照らし理事長自身が日常の診療と法人運営にあたるなか、感じられていることを素朴な疑問として「日本の医療レベル」、「医療費」、「今回の医療制度改革」等20項目にわたって講演を頂きました。

又医療活動38年間の人生、七転八起を座右の銘とし努力目標・生活目標として1日24時間の有意義な使い方の紹介がありました。最後はユーモアを交えて「ぴんぴんころりん」人生をモットーに有意義な講演をいただきました。(記 松田)



各施設連絡先

社会福祉法人 松樹会

つくしんぼ長尾 072-868-2190
デイサービスセンター長尾 072-868-2190
有償運送事業(福祉タクシー) 072-868-2190
つくしんぼ藤阪 072-868-2191
たんぼぼ藤阪 072-868-2197
居宅介護支援センターつくしんぼ 072-868-4394
特養いこいの里開設準備室 072-868-2191

鍼灸接骨院 つぐみ 072-836-8280
居宅介護支援センターつぐみ 072-836-8281

医療法人 みどり会

中村病院 072-868-2071
地域医療相談室 072-868-2071
中村記念病院 072-868-2070
なごみの里 072-868-2072
配食サービスセンターなごみ 072-868-2072
みどり介護学院 072-868-2194
たんぼぼ長尾 072-868-2195
居宅介護支援センターなごみ 072-868-4391
訪問看護ステーションみどり 072-868-4392
訪問介護ステーションみどり 072-868-4392
枚方市地域包括支援センターみどり 072-845-2002

編集後記

法人合同季刊誌「みどりの風」第6号を発刊させていただきます。この4月に開設いたしました中村記念病院の回復期リハビリ病棟も関係医療機関の御協力を得てお蔭様で順調に推移しております。又来年4月開設予定の特養「いこいの里」の開設実行委員会も定期的に開催し、ご利用者の皆様に満足していただけるよう取り組んでおります。地域の皆様にも気軽に立ち寄っていただける地域交流スペースも開放する予定です。今後ますます医療福祉の分野も厳しい状況が続くとは思いますが地道な活動を通じて評価いただけるよう努力してまいります。

季刊誌編集委員会
連絡先 ☎072-868-2071
法人本部 松田